

# ワクチンで防げる病気 ～ 「肺炎球菌感染症について」



## <どんな病気？>

肺炎球菌感染症とは、免疫の機能が十分でない乳幼児や高齢者がかかりやすい病気です。  
この菌は、主に鼻やのどの奥に存在していて、咳やくしゃみなどにより飛沫感染します。  
主な病気には、肺炎、気管支炎、副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎、敗血症などがあります。

## <経過と治療について>

初期には発熱の他に目立った症状がなく、風邪と診断されることも多く、早期診断が難しい病気です。  
その後、ぐったりする、食欲低下、意識低下などの症状が出てきます。  
肺炎や中耳炎は重症化する傾向があります。  
抗生物質により治療をしますが、薬が効かない耐性菌が多く、治療が困難になるといわれています。

## <ワクチンについて>

肺炎球菌には多くの型がありますが、現在の肺炎球菌ワクチンは、日本に存在している菌の約 70%に対して免疫をつけることができるといわれています。  
ワクチンにより、病気をあらかじめ予防することがとても大切です。



### 【乳幼児の場合】

定期接種として受けられるのは、生後2か月から60か月(6歳未満)までです。  
ワクチンの接種回数は接種開始の月齢毎に定められています。  
小さい時ほど罹りやすく重症化しやすいため、接種回数が減るのを待たずに、生後2か月を過ぎたら、できるだけ早く接種しましょう。

### 【高齢者の場合】

平成26年10月1日から、高齢者肺炎球菌予防接種が予防接種法に基づく定期接種になりました。  
対象は、原則 65 歳以上の方で 5 歳毎に接種年齢が定められており、接種回数は 1 回です。個人差はありますが、1 回の接種で 5 年以上効果が持続するといわれています。

(別表参照)

## <お問い合わせ>

定期予防接種の実施主体は、お住まいの市町村です。  
申込み方法、接種日時、場所、自己負担額、その他予防接種に関する詳しい情報は、市町村の広報誌や予防接種担当窓口で確認をお願いします。

参考：厚生労働省肺炎球菌感染症

一般社団法人日本ワクチン産業協会

## ワクチン定期接種の対象者・標準スケジュール

### 【乳幼児】

ワクチンの接種回数は接種開始の月齢毎に以下のように異なります。

接種開始時期	初回免疫	追加免疫
生後 2 か月以上 7 か月未満	27 日以上の間隔で 3 回接種する。	3 回目の接種から 60 日以上の間隔をあけて、生後 12～15 か月に至るまでに接種する。
生後 7 か月以上 12 か月未満	27 日以上の間隔で 2 回接種する。	2 回目の接種から 60 日以上の間隔をあけて、生後 12 か月以降に行う。
1 歳以上 2 歳未満	60 日以上の間隔をあけて、計 2 回接種する。	
2 歳以上 6 歳未満の場合	1 回のみ接種する。	

### 【高齢者】

対象	接種回数
平成 27 年 3 月 31 日に、満 65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳、及び 100 歳以上の方	1 回のみ接種する。
平成 27 年 3 月 31 日に、満 60 歳～64 歳の方で、 心臓・腎臓・呼吸器の機能障害、または HIV による免疫機能障害があり、その程度が身体障害者手帳の 1 級相当の方	

※上記に該当しない今年度満 60 歳以上の方は、来年度から順次対象になります。